



ちょっとそこまで～お散歩日和（植物編）～



オタフクナンテン



団地内の6・7号棟と10・11号棟の間に、赤い葉が美しい低木が何本か植えられています。オタフクナンテンです。ナンテンの園芸品種で、特に、背が高くない「矮性」である点と、ほぼ1年中赤い葉が美しい点が大きな特徴となっていて、最近やたらと目にかかるが増えてきたなと感じさせられます。

狭いスペースや、日当たりの悪い場所、あまり手を掛けられないような条件でも、ほとんど面倒がかからない、それでいて葉の色が赤くて、カラーリーフとしての存在感も得られるという、非常に育てやすく貴重な木だということになります。

もちろんナンテンと異なって花は咲きにくく、実もなりにくいことから、良くも悪くも1年中変わり映えのしない、ほとんど同じような雰囲気を保ち続けるので、長所と短所とを同時に兼ね備えている木ということでもあります。あえて言えば、初夏の頃に少しだけ緑がかってくるかなという程度です。

名前に「オタフク（お多福）」という冠が付いているのは、ナンテンに比べて丸味を帯びる葉をオタフクになぞらえたものです。確かに両者を比べてみると、オタフクはどこかしらぷっくりした、下膨れの印象であるのに対して、ナンテンの葉はすっきりして尖っているように思います。しかし、どちらも紅葉している晩秋であれば、赤い実のあるなしでしか判別する自信はありません。



別名オカメナンテンとも、ゴシキナンテンとも言われることがありますが、ナンテンが「難を転じる」ことから縁起の良い木とされ、さらにそこに「お多福」「オカメ（お亀）」「ゴシキ（五色）」が加わっているのですから、鬼に金棒クラスのご利益がありそうです。おそらく今後、どんどん葉が茂ってくるようになるでしょうから、当団地内での存在感はもっと大きくなっていくように思います。

（終）